

「八ヶ岳山麓のくらとこて絵」刊行とカルチャープラザ開設 およびフォーラム「八ヶ岳山麓の魅力再発見」開催

取組に至る背景・事業の目的

- 八ヶ岳山麓に数多く存続する「くら」は、寒さの厳しい気候に適応した地域文化である。これを見直そうと住民有志が「くらフォーラム in 八ヶ岳」実行委員会を組織した。
- 「くら」だけでなく、付随する「こて絵」も題材とし、埋もれていた地域文化の情報発信と交流の場を設け、地域づくりの活動をネットワーク化させ、活性化させる起爆剤としての役割を果たす。

事業内容

新たな観光スポット・モデルコースの開発等呼び覚ますことによって、観光や地域振興の推進に寄与する。

- 「八ヶ岳山麓の魅力 再発見」フォーラムの開催
7月23日(土) 講演、パネルディスカッション
- 笹原集落 くら・こて絵・庭園巡りツアーの実施
10月29日(土)
- 冊子「八ヶ岳山麓のくらとこて絵」、ガイドマップ
「くら、こて絵と庭園めぐり」の作成
- こて絵展の開催
2月22日(水)～26日(日) 茅野市民会館



【パネルディスカッション】

事業効果

- フォーラム参加者 90名
- 笹原集落 こて絵巡りツアー参加者 150名
- こて絵展参加者 約800名(5日間)
雑誌「KURA」をはじめマスコミ等取材(TV放映)
宮川「かんでんぐら」での継続展示を実施
- 「こて絵(芦田)」出展依頼
(ギャラリー&ショップ・サワダ：愛知県美浜町)



【こて絵展の開催】

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 「くら」と「こて絵」が多く残る笹原地区の理解と協力をいただいた。
- 見慣れて気づかなかった「くら」と「こて絵」の価値に、驚きと共感を持って受け入れられた。
- 笹原地区の住民(くらの持ち主)の方が、見学者に積極的に説明してくれるようになった。
- ガイド養成と会員相互の交流の充実を図る。
- 埋もれている地域の民族文化(寺社建築や古道、石仏等)の再発掘を続けていく。

【選定のポイント】

地域の産業・伝統文化遺産である「寒天蔵」といった地域資源を地域住民が再認識するきっかけとなり、くら・こて絵を活用した地域づくりが行われた。

団体名	「くらフォーラム in 八ヶ岳」実行委員会 (茅野市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	事務局 朝倉 清 電話 0266-78-2442	事業費	1,075,076円
		支援金額	1,015,000円